

Nakabayashi

トジスター

NB-202

取扱説明書

このたびは、トジスターNB-202をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

- この「取扱説明書」は、トジスターNB-202の操作方法、および使用上の注意事項について記載してあります。
- トジスターNB-202の性能を十分発揮させ、効果的にご利用いただくために、この「取扱説明書」を最後までお読みください。
- お読みになった後は、必ず元の場所に保管してください。使用に関して不明な点が出てきた場合は、再度この「取扱説明書」をご利用ください。



トジスター NB-202の特長

1. 操作は簡単、スタートスイッチを押すだけの全自動です。
2. 綴厚は5cmまで可能。厚さによる調整は一切不要です。
3. トラブルを未然に防ぐ、数々の自己検知機能を装備。
4. 長期保存が可能なナイロンチューブによる強固な製本。
5. 一台二役。5cm自動穿孔機としても使用できます。
6. チューブ排出レバーにより、チューブ交換が簡単になりました。
7. ゴムコインの自動回転機能が付きました。
8. 製本/穴あけ完了時に、押さえアームの自動解放機能が付きました。
9. 省エネに配慮した、自動電源オフ機能が付きました。

もくじ

1. 電源・設置環境について 1

電源について	1
設置環境について	1
設置スペースについて	2
チューブについて	2
付属品と備品	2

2. 各部の名称 3

各部の名称	3
操作パネルの説明	4

3. 操作の前に 5

操作の前に	5
綴じしろの設定	5
テーブル目盛の使い方	6
パンチ穴用スケールについて	6
使用例	6
穴あけ時の注意	7
自動電源オフ機能について	7

4. 操作方法 8

製本/穴あけモードの操作方法	8
緊急時/動作を中断したい場合の対処方法	9

5. 簡単なエラーとトラブルの処置 10

チューブ排出(レバー操作)ランプが点灯したとき	10
安全カバーランプが点灯したとき	10
機械作動中に安全カバーを開けた場合	10
コイン交換ランプが点灯したとき	11

ドリル研磨ランプが点灯したとき	11
-----------------------	----

ピン作動ランプが点灯したとき	12
----------------------	----

リセット/リターンランプが点灯したとき	13
---------------------------	----

残りチューブの取り除き方	14
--------------------	----

チューブのかしめが不完全な場合	15
-----------------------	----

6. 保守上の注意 16

ゴムコインの自動回転機能について	16
------------------------	----

ドリルの取り扱いについて	16
--------------------	----

ドリルの取り外し方	16
-----------------	----

ドリルの取り付け方	17
-----------------	----

ドリル内の切屑の取り除き方	18
---------------------	----

ドリルの研磨方法	19
----------------	----

ダストトレイについて	19
------------------	----

7. 消耗品、オプションについて 20

8. 主な仕様 21

9. 安全のための点検のお願い 22

表示の内容

この「取扱説明書」では、以下のマークで注意事項を示します。

マーク	表 示 内 容
	禁止事項を示します。 禁止行為を行いますと、直接または機械の損傷の結果、けがを負う危険があります。 禁止の内容を  の中に絵文字で示します。
	要請事項を示します。 要請事項が実施されない場合は、十分な安全を保つことができません。要請の内容を  の中に白抜き絵文字で示します。
	注意事項全般を示します。 取り扱いの誤りによって、危険や損害が発生する可能性があります。発生する危険や、損害の程度によってマークの横に「警告」、「注意」と表示します。 警告: 取り扱いを誤った場合、使用者が死亡、または重傷を負う可能性が想定される場合。 注意: 取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う危険が想定される場合、及び物的損害のみの発生が、想定される場合。
	個別の注意事項を示します。 注意や危険の内容を  の中に絵文字で示します。 派生する危険や損害の程度によってマークの横に「警告」、「注意」と表示します。 表示例  : 感電注意

!! このマークは機械を使用する際の保守上の注意を示します。
☆ このマークは機械を使用する際の補足や参考を示します。

使用上の注意事項

本製品を安全にお使いいただくために、必ずお守りください。

 警告	
● 指定電源以外は使用禁止	
表示された電源電圧以外の電圧で使用してはいけません。また、俗に言う“タコ足配線”をしてはいけません。火災・感電のおそれがあります。	
● アース線の接続	
- 感電事故防止のために、必ずアースに接続してください。アースに接続しないで、漏電した場合は火災や感電のおそれがあります。 - ガス管、電話専用のアース端子、避雷針、配管の途中でプラスチックになっている水道管などには、絶対にアース線を接続しないでください。火災や爆発のおそれがあります。アースに接続できない場合は、販売店あるいは保守・サービス会社にご相談ください。	
● 電源プラグ、コードの取り扱い	  
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししてはいけません。感電の原因になることがあります。 - 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしてはいけません。また重たいものを載せたり、引っ張ったり無理に曲げたりすると、電源コードをいため、火災や感電のおそれがあります。 - 電源コードに触れたときに本体に通電する/しないなどの不安定な場合は、すぐに電源を切り、電源プラグを抜いてください。そのまま使用すると、火災や感電のおそれがあります。販売店あるいは保守・サービス会社に修理を依頼してください。	
● ヒューズが切れた場合は、必ず同等規格のヒューズをお使いください。規格外のヒューズを使用した場合、火災や故障の原因となることがあります。	

使用上の注意事項

本製品を安全にお使いいただくために、必ずお守りください。

⚠ 警告

●分解、改造、修理の禁止

- ・この機械を、分解してはいけません。けがの原因となるおそれがあります。
- ・この機械を、改造してはいけません。火災や感電、けがのおそれがあります。また、お客様による修理は、危険な場合がありますから絶対にしてはいけません。
- ・この機械の裏ぶた、カバー、キャビネットを外してはいけません。内部には電圧の高い部分があり、感電のおそれがあります。



●万一、異常が発生したら

- ・発熱していたり、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常が発生した場合は、火災や感電のおそれがありますので、すぐに電源を切り、電源コードのプラグを抜いてください。その後、販売店あるいは保守・サービス会社に修理を依頼してください。
- ・異物(金属片、水、液体)が機械の内部に入った場合は、すぐに電源を切り、電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、火災や感電のおそれがあります。販売店あるいは保守・サービス会社に修理を依頼してください。
- ・この機械を落したり、カバーを破損した場合は、すぐに電源を切り、電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、火災や感電のおそれがあります。販売店あるいは保守・サービス会社に修理を依頼してください。
- ・運転中に異常な音や、振動がする場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、火災や感電のおそれがあります。販売店あるいは保守・サービス会社に修理を依頼してください。



⚠ 注意

- 電源コードおよび電源プラグは、奥まで確実に挿入してください。挿入が不完全だと火災や故障の原因になることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張ってはいけません。コードが傷つき火災や感電の原因になることがあります。必ず電源プラグを持って抜いてください。
- 本機を移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。コードが傷つき、火災や感電のおそれがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置いてはいけません。火災や感電のおそれがあります。
- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置いてはいけません。落ちたり、倒れたりして、けがの原因になることがあります。
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたるような場所に置いてはいけません。火災や感電の原因になることがあります。
- この機械の上に、花瓶・コップや水の入った容器、または金属を置いてはいけません。こぼれたり、中に入った場合、火災や感電のおそれがあります。
- この機械の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、落したりしてはいけません。火災や感電のおそれがあります。



使用上の注意事項

トジスターNB-202の専用警告・注意事項

NB-202は、全自動製本機です。本機をご使用の際には、特に下記の事項をお守りください。また、電気製品としての一般的な使用上の注意事項も後に掲げますので、併せてお守りください。

⚠ 警告

●電源投入後は、安全カバーより内側には、手や指および工具を入れてはいけません。ドリルや押さえアームが稼動しますので、けがの原因になることがあります。



●残りチューブを取り除く場合、押さえアームの下に手や指を入れてはいけません。ガイドピンが下から上がってきますので、けがの原因になることがあります。



⚠ 注意

●切れないドリルの使用は、ドリルの破損や製本異常の原因になります。ドリルが破損した場合、破片が飛ぶ危険があります。ドリルの刃先が大きく破損していたり、ドリルの有効長さが45mmより短くなっている場合は、ドリルを新品と交換してください。



●部品を交換する時や、ドリルの研磨、屑抜きなどをする場合は、付属の工具を使用してください。他の工具を使用すると、けがの原因になることがあります。



⚠ 注意

●電源投入後は、導型体が高温になりますので、触れないようにしてください。やけどやけがの原因になることがあります。



●製本中または穴あけ中に、穴位置の調整は行わないでください。やけどやけがの原因になることがあります。



●製本直後のチューブは高温になっていますので、すぐに触れてはいけません。やけどやけがの原因になることがあります。



●穴あけ直後のドリルは高温になっていますので、すぐに触れてはいけません。やけどやけがの原因になることがあります。



●製本途中で安全カバーを開けて停止したままにしてはいけません。導型体が高温になっていますので、書類がこげる可能性があります。



●過負荷によりドリルが破損した場合は、直接、手で触れてはいけません。やけどやけがの原因になることがあります。



●別売品のシリコンスプレーは、可燃性のLPGを使用しています。

●ドリルを機械本体に付けたままスプレーすると、引火する危険があります。



●スプレーは、ドリルの温度が下がってから、必ずドリルを機械から外して使用してください。

1. 電源・設置環境

電源について

⚠ 注意

- 電源電圧AC100Vで、周波数は地域により50Hzと60Hzに分かれています。本機の仕様とあわせて、ご確認ください。
- 本機は、最大で700Wの電力を消費します。コンセントは単独で使用してください。
- テーブルタップなどの継ぎ線や、俗に言う“タコ足配線”はしないでください。火災や感電の恐れがあります。



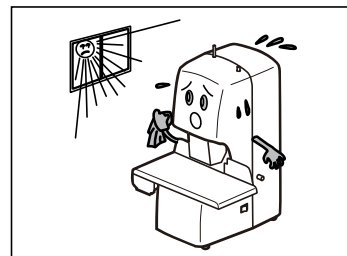
設置環境について

設置場所

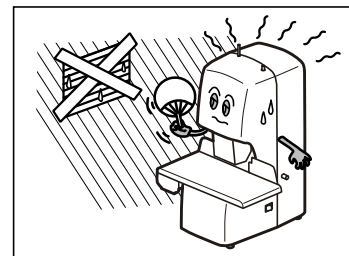
次の点に留意して本機を設置してください。

- ・ 温度、湿度…… 直射日光のあたる所や、極端に高温または低温になる所、クーラーの風などが直接あたる所には設置しないでください。チューブのかしめに影響します。
- ・ 安定した場所… 水平でない所、通路など人が接触する恐れのある所には、設置しないでください。本機のカタつきや転倒の原因になります。
- ・ 機械の高さ…… テーブルは、作業に適切な高さにしてください。操作しにくい姿勢では、危険箇所に接触するなど、けがの原因となります。

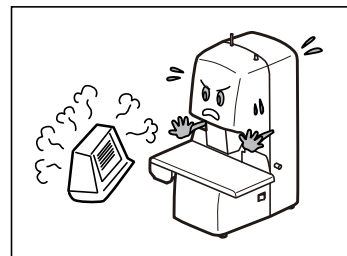
■ このような場所へは、設置しないでください。



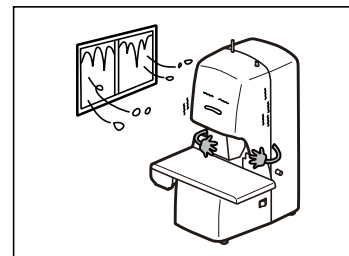
・ 直射日光のあたる所



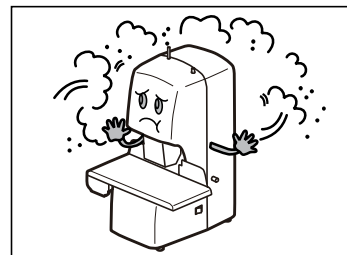
・ 換気の悪い所



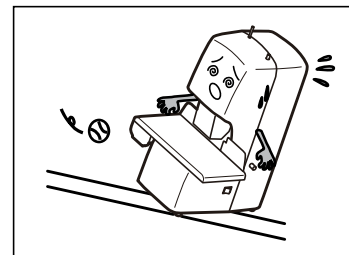
・ クーラー、ヒーターなどから直接風があたる所



・ 極端に温度や湿度が高い、または低い所



・ ほこりや振動の多い所



・ 水平でなかったり、不安定な所

☆設置時の注意事項:アース線は必ず設置してください。

設置スペースについて

日常の操作や機械のお手入れに支障がないように、下図の設置スペースを確保してください。

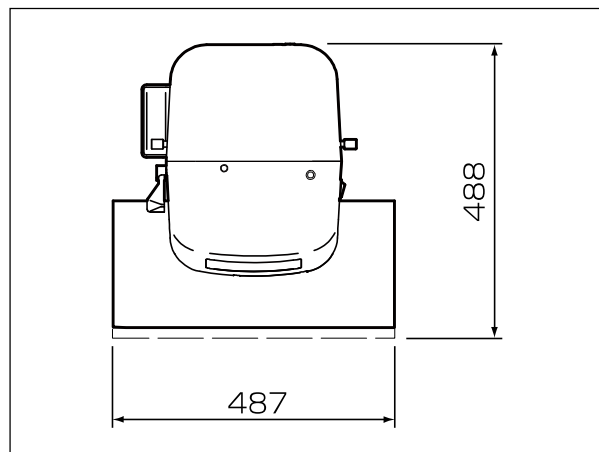
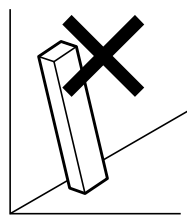


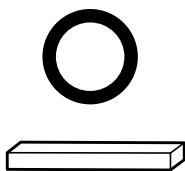
図1 設置スペース 単位：mm

チューブについて

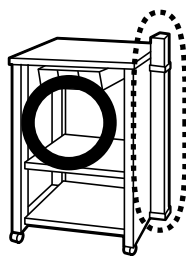
チューブを斜めに立てたり、湾曲の原因になることは避けてください。湾曲すると、正常なチューブ送りができません。チューブの保管は、横に寝かせるか、オプションの専用デスクを使用し、チューブ立てに入れてください。



壁に立てかける



横に寝かしておく



専用デスクの使用
(オプション)

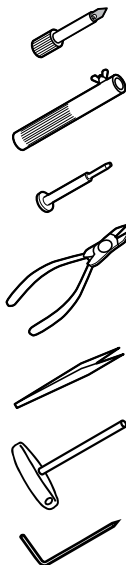
付属品と備品

付属品と備品の確認

- 付属品は、ドリル研磨器（研磨器具、屑抜き工具本体、つき出し器具）、ニッパー、ピンセット、T字型六角レンチ、L字棒の5種類が入っています。
- 備品は、50cmチューブ×10本が入っています。

付属品の用途

- **ドリル研磨器**
 - 研磨器具 …… ドリルを研磨する時に使用。
 - 屑抜き工具本体 …… ドリルを研磨する時や、ドリル内の紙屑を取り除く時に、ドリルを固定する為に使用。
 - つき出し器具 …… ドリル内の紙屑を取り除く時に使用。
- **ニッパー** …… 残りチューブが平たくかしまれている場合の除去に使用。
- **ピンセット** …… 残りチューブを取り除く時に使用。
- **T字型六角レンチ** …… ドリルを、ドリルソケットから取り外す時に使用。
- **L字棒** …… ゴムコインの交換時、ドリルソケット内部の掃除に使用。



⚠ 注意

- ドリルの屑抜きは必ず、つき出し器具と屑抜き工具本体を使用してください。
- 他の工具を使用すると、手や指を突き、けがをすることがあります。



2.各部の名称

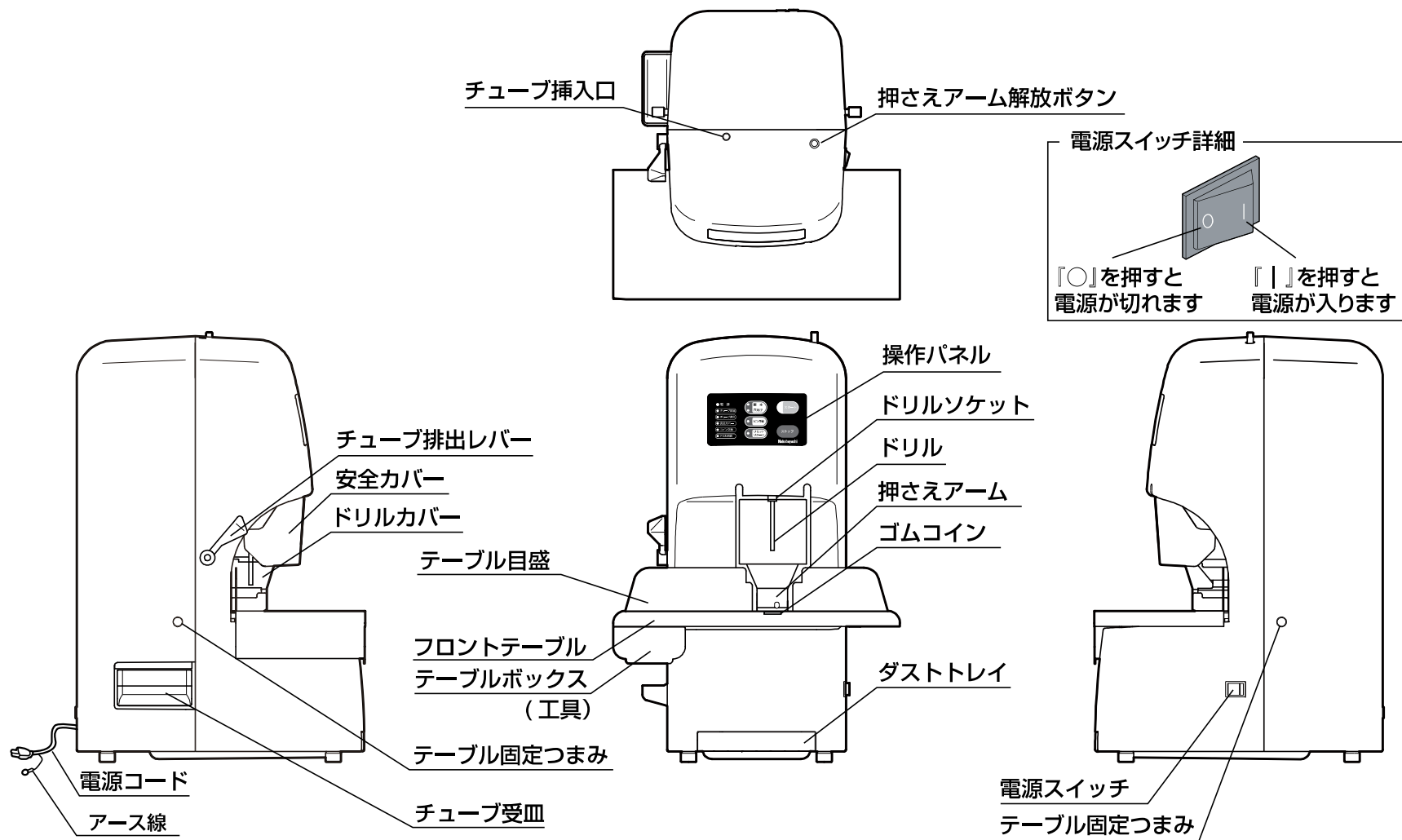


図2

操作パネルの説明

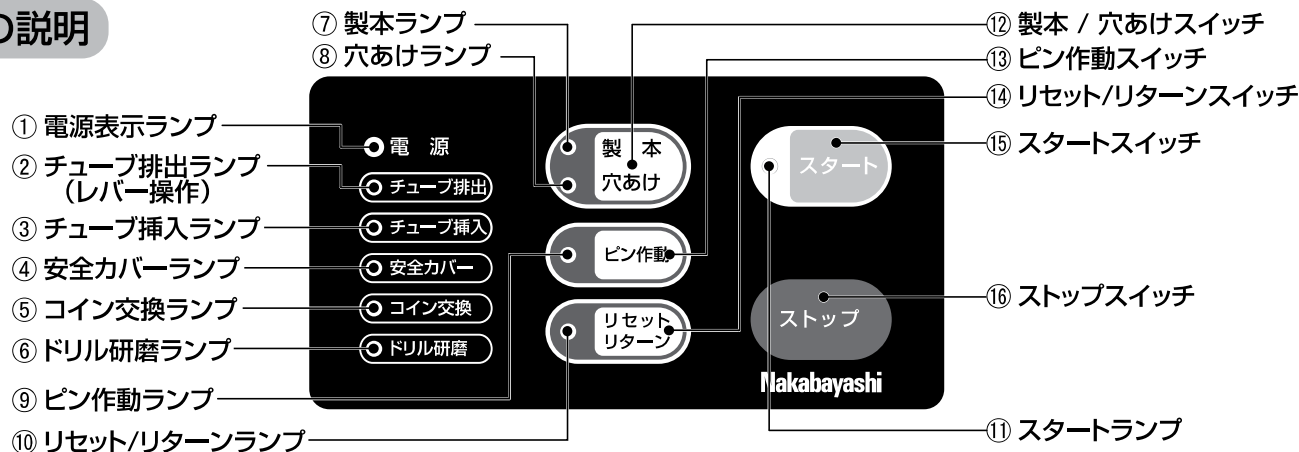


図3 操作パネル図

①電源表示ランプ

電源が入っている時に点灯します。

②チューブ排出(レバー操作)ランプ

P10 参照

チューブが一定の長さより短くなると点灯します。チューブ排出レバーで、残っているチューブを取り除いてください。

③チューブ挿入ランプ

P10 参照

チューブが排出されると点灯します。新しいチューブを挿入してください。

④安全カバーランプ

P10 参照

安全カバーが開いている場合に点灯します。この間、本機は作動しません。

⑤コイン交換ランプ

P11 参照

コインの交換時期になると点灯します。

⑥ドリル研磨ランプ

P11 参照

ドリルが磨耗して、研磨が必要になると点灯します。

⑦製本ランプ

製本モード選択時に点灯します。

⑧穴あけランプ

穴あけモード選択時に点灯します。

⑨ピン作動ランプ

P12 参照

製本中に異常が生じた場合に点灯します。

⑩リセット/リターンランプ

P13 参照

穴あけ中に異常が生じた場合に点灯します。

⑪スタートランプ

動作準備が整うと点灯します。

⑫製本 / 穴あけスイッチ

スイッチを押すたびに、製本モードと穴あけモードが切替わります。

⑬ピン作動スイッチ

製本中に異常が生じた場合、動作を解除させたい時に押します。

⑭リセット/リターンスイッチ

穴あけ中に異常が生じた場合、動作を解除させたい時に押します。

⑮スタートスイッチ

このスイッチを押すと、押さえアームが書類上面まで下降します。再度スイッチを押すと、穴あけ/製本を開始します。ドリルを取り外すときは、このスイッチを長押しするとドリルが所定の位置まで下りてきます。

⑯ストップスイッチ

このスイッチを押すと、全ての動作を停止します。穴あけ/製本途中で、停止させたいときに押してください。

3.操作の前に

操作の前に

⚠ 注意

- 電源スイッチを入れる前に確認してください。

ドリル

- ドリルソケットにドリルが固定されているか、付属のT字型六角レンチで2本の固定ネジを締めて、チェックしてください。確実に固定されていないと、万ードリルが操作中にドリルソケットから外れた場合、機械が破損するおそれがあります。

P17 参照

ゴムコイン

- ゴムコインがコイン受けに入っていることを、確認してください。

図4 参照

チューブ

- 本体上面のチューブ挿入口から、チューブを軽く押し込んでください。

P3 図2 参照

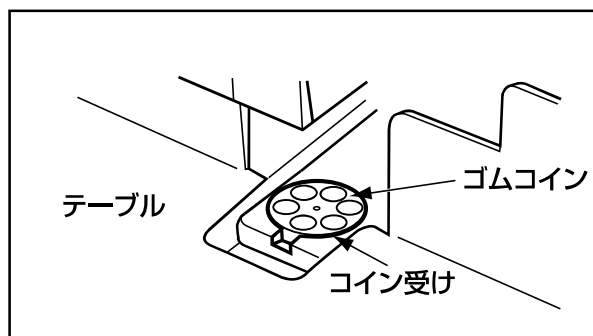


図4

綴じしろの設定

押さえアーム側面の綴じしろ目盛を使って、綴じしろを設定してください。

- テーブル固定つまみをゆるめて、フロントテーブルを前後にスライドさせて、綴じしろを決定してください。

図5 参照

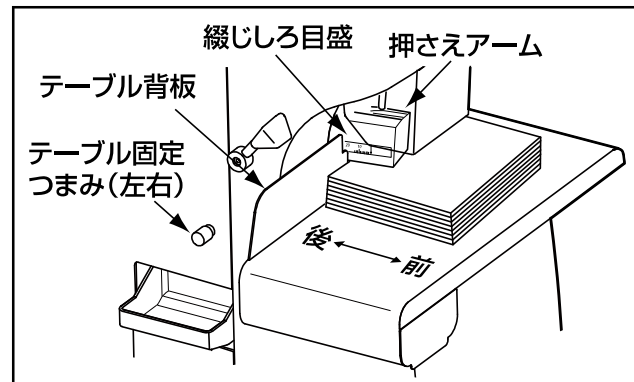


図5

- テーブル背板の前面を押さえアームの綴じしろ目盛に合わせます。設定範囲は0～20mmです。
- ここで言う“綴じしろ”とは、製本する書類の端からドリル穴の中心までの距離を指しています。

図6 参照

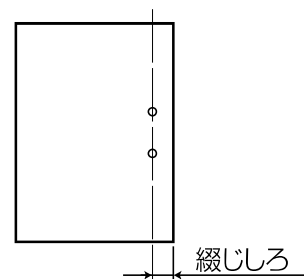


図6

テーブル目盛の使い方

テーブル目盛には、次の2種類の表示があります。

- ①パンチ穴用スケール(規格サイズ)
- ②穴の中心からの距離

②穴の中心からの距離：必要に応じて利用してください。

①パンチ穴用スケール：ファイリング用に穴あけしたい時、利用してください。

図8 参照



図7

パンチ穴用スケールについて

規格サイズの紙に、パンチ穴と同じ80mmピッチ(中心振り分け)の穴を開ける時に便利なスケールです。

紙の短辺側に穴を開ける時(タテとじ)は“E”表示、紙の長辺側に穴を開ける時(ヨコとじ)は“S”表示を利用してください。

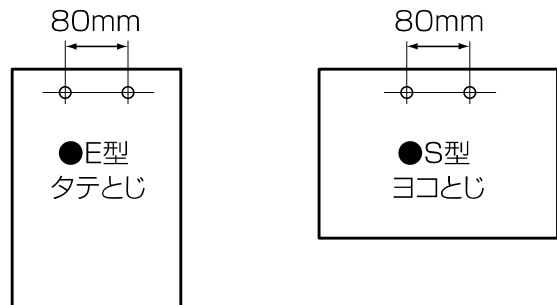


図8 ファイル・バインダー規格

使用例

A4サイズをヨコとじする場合

右側の穴のあけ方

“右の穴”のスケールの“A4S”のラインに、書類の左端面を合わせて穴あけ操作をしてください。

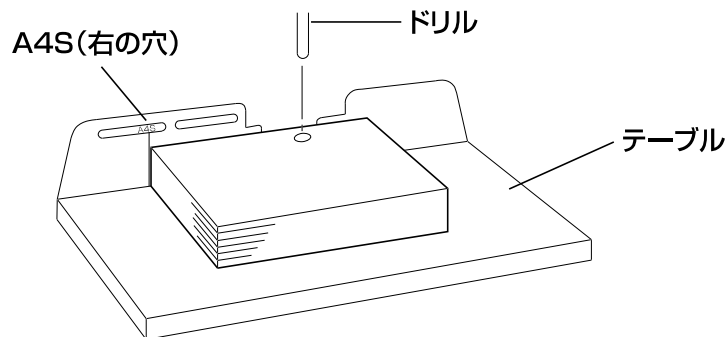


図9

左側の穴のあけ方

“左の穴”のスケールの“A4S”のラインに、書類の左端面を合わせて穴あけ操作をしてください。

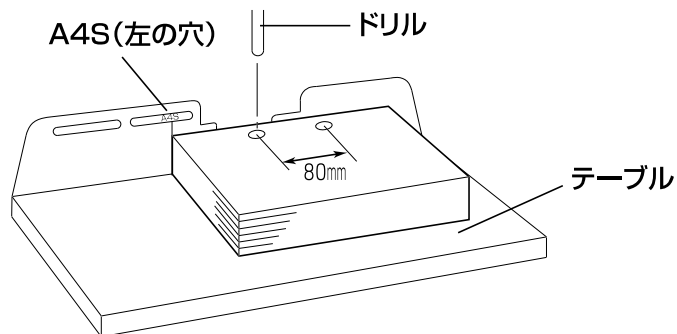
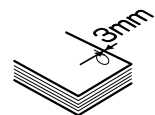


図10

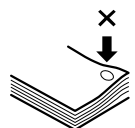
穴あけ時の注意

⚠ 警告

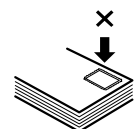
- 次のような条件下では穴あけをしないでください。
ドリルの折れや破損が発生し、けがを負う危険があります。
また、ドリルリセットの原因となるおそれがあります。



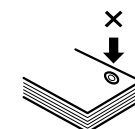
- 端から3mm以内の穴あけ。



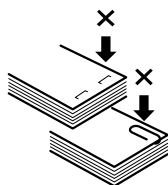
- 段差や傾斜のある書類、伝票類など腰のない紙質の用紙に穴をあける場合。
※ やむを得ない場合は、厚紙の紙片を挟むなどして、高さを合わせてください。



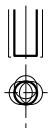
- タック紙(粘着紙)や切手・印紙などが貼ってある部分。



- 一度チューブで製本した部分。

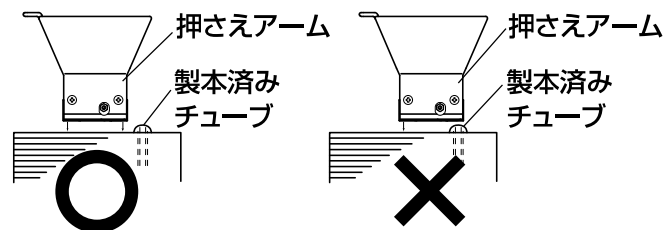


- ホッチキスの針やゼムクリップなどの部分。
※ 書類の中に混入していないか、穴あけ前に十分チェックしてください。



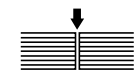
- ドリル回転の中心軸がぶれている場合。そのままでは、使用できません。販売店あるいは保守・サービス会社に修理を依頼してください。

- 押さえアームが、製本済みのチューブの上に乗らないように、位置を調整してください。



- 切り屑が真円状○になるように、穴あけをしてください。
不完全な穴あけ状態 DD になる要因は避けてください。

- ◆ 書類の端が揃っていないもの
書類の落丁を防ぐためにも
端面をよく揃えてください。
- ◆ 2つ折りの折り目の部分
- ◆ 書類のつき合わせ部分



- 穴あけを中断して、再度その部分に穴を貫通させる場合は、ドリルと穴の中心を確実に合わせてください。

自動電源オフ機能について

何も操作せず一定時間(約30分)が経過しますと、カバー右側面にある電源スイッチが自動的に切れます。

- 再起動させる場合は、電源スイッチの『 | 』側を押してください。
- 製本/穴あけスイッチ⑩を押して、モードの選択をしてください。
- 製本モードを選択した場合、製本ランプ⑦が点滅しているときは、点灯に変わるまで2~4分お待ちください。 **P4 図3 参照**
- 穴あけモードを選択した場合、穴あけランプ⑧が点灯します。

☆ 自動電源オフまでの時間は変更することができます。

変更方法は販売店までお問い合わせください。

4.操作方法

操作方法是、製本モードと穴あけモードの2通りがあります。それぞれの手順に従ってください。

⚠ 警告

- 安全カバーより内側には手や指および工具を入れてはいけません。ドリルや押さえアームが稼動しますので、けがの原因となる場合があります。



⚠ 警告

- 押さえアームの下に手や指を入れてはいけません。ガイドピンが下から上がって来ますので、けがの原因となる場合があります。



⚠ 警告

- 電源投入後は、押さえアームが高温になっています。触れてはいけません。やけどやけがの原因となる場合があります。



⚠ 警告

- 製本直後のチューブは高温になっていますので、すぐに触れてはいけません。やけどやけがの原因となる場合があります。



製本モード/穴あけモードの操作方法

☆動作を中断したいときや、緊急に停止したいときは、ストップスイッチ⑯を押してください。

停止後、再スタートするとき、スタートランプ⑪が点灯していない場合は点灯しているスイッチを押してください。

- 1.安全カバーとドリルカバーが閉まっていることを確認してください。

図11 参照

- 2.カバー右側面にある電源スイッチの『|』側を押して、電源を入れてください。操作パネルの電源表示ランプ①が点灯することを確認してください。

図12、13 参照

☆電源スイッチを入れたときは、前回の操作モードを選択しています。

- 3.製本/穴あけスイッチ⑫を押してモードを選択してください。

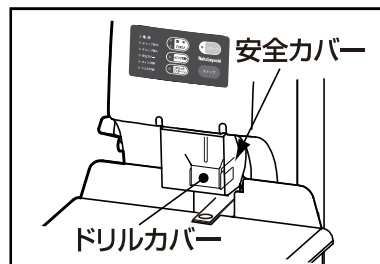


図11

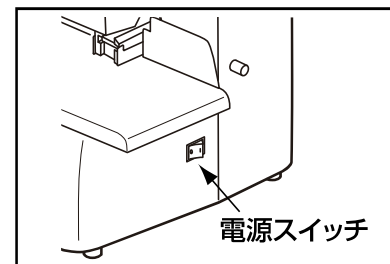


図12

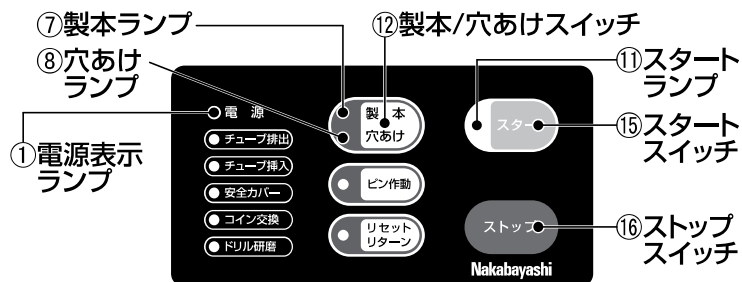


図13

●製本モード

製本ランプ⑦が点滅します。点滅から点灯に変わるまで、2～4分お待ちください。準備が整うと、製本ランプ⑦が点灯に変わり、同時にスタートランプ⑪も点灯します。

●穴あけモード

穴あけランプ⑧が点灯し、同時にスタートランプ⑪も点灯します。

4.書類をよく揃えて、フロントテーブルにセットしてください。

☆書類のセット方法は、P5「綴じしろの設定」、P6「テーブル目盛の使い方」を参照してください。

⚠ 警告

●押さえアームの下に手や指を入れてはいけません。ガイドピンが下から上がって来ますので、けがの原因となる場合があります。



5.スタートスイッチ⑬を押してください。押さえアームとドリルが書類上面まで下降して停止します。このとき、押さえ完了を知らせる「ピッ」という音が鳴ります。

6.再度、スタートスイッチ⑬を押してください。穴あけもしくは製本まで、自動的に進みます。

☆厚い書類を製本する場合は、書類が動くことがあります。安全カバーより離れたところを手で押さえてください。

7.製本/穴あけが完了すると、押さえアームが上昇して、書類が解放されます。続けて製本する場合は、手順4～6をくり返しおこなってください。

緊急時/動作を中断したい場合の対処方法

●機械の作動中に緊急で停止させたいときには、ストップスイッチ⑯を押してください。 **図14 参照**

●復帰させるには、下記の手順に従って操作してください。

◇リセット/リターンランプ⑩が点灯した場合

1.リセット/リターンスイッチ⑭を押してください。ドリルが上昇します。

2.押さえアーム解放ボタンを押してください。押さえアームが解放されます。 **図15 参照**

◇ピン作動ランプ⑨が点灯した場合

1.ピン作動スイッチ⑬を押してください。ガイドピンが元の位置に戻ります。

2.押さえアーム解放ボタンを押してください。押さえアームが解放されます。 **図15 参照**

3.まだピン作動ランプ⑨が点灯したままの状態なので、再びピン作動スイッチ⑬を押してください。

☆チューブがガイドピンに残っている場合がありますので確認して、取り除いてください。

P14「残りチューブの取り除き方」参照

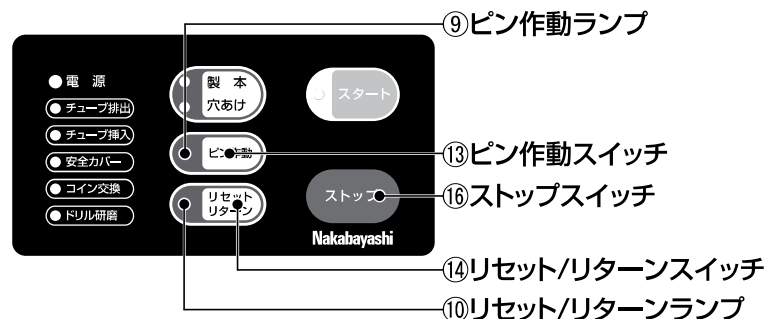


図14

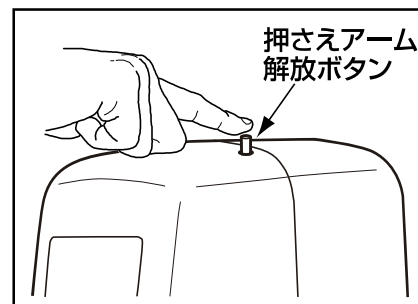


図15

5. 簡単なエラーとトラブルの処置

本機はエラーやトラブルが発生した場合、不具合の発生した箇所を操作パネルのランプでお知らせします。 図16 参照

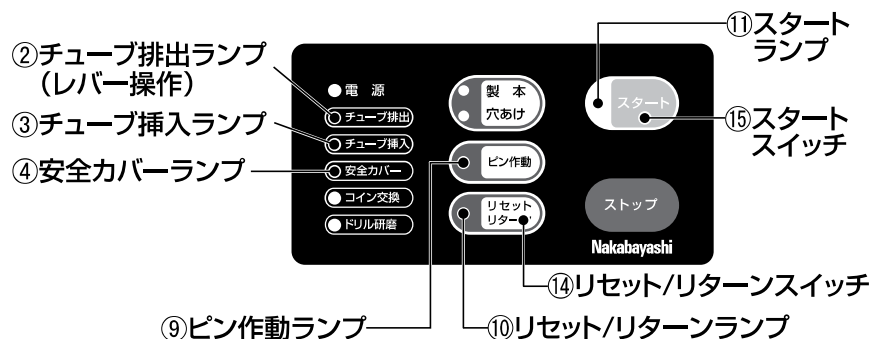


図16

●チューブ排出(レバー操作)ランプ②が点灯したとき (チューブ挿入ランプ③が点灯したとき)

チューブが一定の長さより短くなると、チューブ排出ランプ②が点灯します。次の手順に従って、残っているチューブを取り除いてください。 図16 参照

1. 機械左側面にあるチューブ排出レバーを、矢印シールに従って操作して、チューブを排出してください。 図17 参照
 2. 排出されたチューブは、機械左側面のチューブ受皿に落ちます。このとき、チューブ排出ランプ②が消灯して、チューブ挿入ランプ③が点灯します。
- ☆排出されたチューブが受皿にたまらないよう、取り除いてください。
3. 新しいチューブを、チューブ挿入口より軽く押し込んでください。チューブの挿入が完了すると、チューブ挿入ランプ③は消灯します。

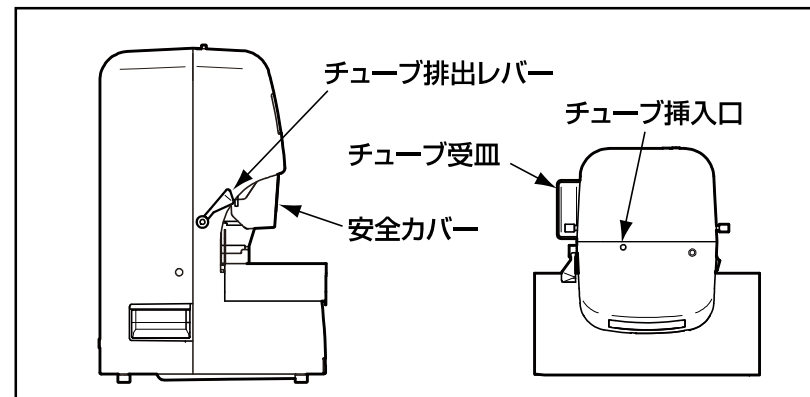


図17

●安全カバーランプ④が点灯したとき

安全カバーが完全に閉まっていない場合、このランプが点灯します。安全上、機械は作動しません。安全カバーを閉めて、安全カバーランプ④の消灯を確認してから、操作してください。

●機械作動中に安全カバーを開けた場合

機械が作動中に安全カバーを開けると、安全カバーランプ④が点灯して、機械は停止します。解除するには、安全カバーを閉めてください。リセット/リターンランプ⑩、もしくはピン作動ランプ⑨が点灯します。

◇リセット/リターンランプ⑩が点灯したとき

リセット/リターンスイッチ⑭を押すと、ドリルが上昇します。その後、スタートランプ⑪が点灯したら、再度スタートスイッチ⑮を押してください。

☆このとき、穴位置がずれるため、書類を移動させてはいけません。

◇ピン作動ランプ⑨が点灯したとき

チューブがガイドピンに残っている場合がありますので確認して、取り除いてください。 P14「残りチューブの取り除き方」参照

●コイン交換ランプ⑤が点灯したとき

ゴムコインは消耗品です。使用回数が規定回数(150回)に達すると、コイン交換ランプ⑤が点灯します。

次の手順に従って、新しいゴムコインと交換してください。

⚠ 警告

●必ず電源スイッチを切ってください。電源スイッチを切らずに作業すると、機械が誤動作した場合、けがの原因となる場合があります。



- 1.電源スイッチを切ってください。
- 2.付属のL字棒をゴムコインに軽く刺して持ち上げ、ゴムコインを取り外してください。 図18 参照

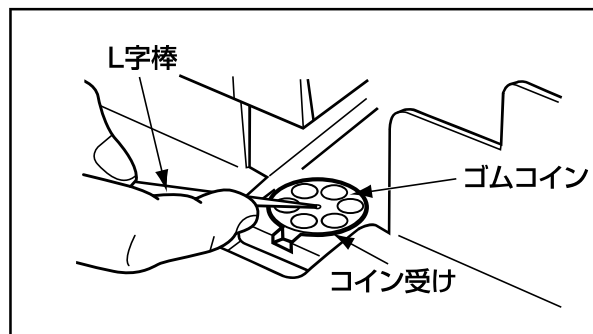
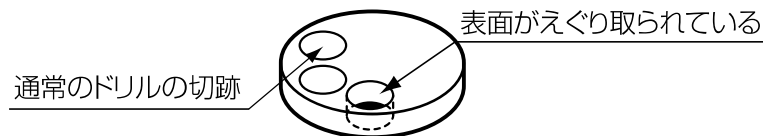


図18

- 3.新しいゴムコインを元の位置にはめ込んでください。
- 4.カバー右側面にある電源スイッチを入れ、リセット/リターンスイッチ⑭を押してください。 図19 参照

☆下図のような症状が出た場合も、新しいゴムコインと交換してください。



☆コイン交換ランプ⑤が点灯する前にゴムコインを交換した場合は、リセット/リターンスイッチ⑭を10秒間押して、使用回数をリセットしてください。

リセットしなかった場合、使用回数が規定回数(150回)に達していても、コイン交換ランプ⑤が点灯します。必ずリセットしてください。

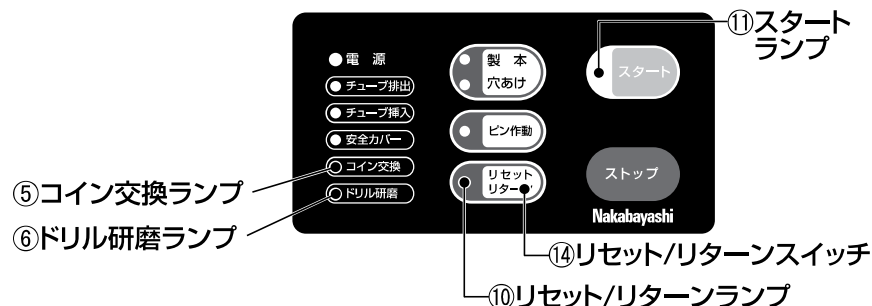


図19

●ドリル研磨ランプ⑥が点灯したとき

ドリルの切れ味が低下すると、ドリル研磨ランプ⑥が点灯します。

同時にリセット/リターンランプ⑩も点灯します。 図19 参照

- 1.リセット/リターンスイッチ⑭を押してください。ドリルが取り外ししやすい位置まで下りてきます。
- 2.ドリルを外して研磨もしくは新品と交換してください。
- 3.ドリルを取りつけ、ドリルカバーと安全カバーを閉めてください。
- 4.リセット/リターンランプ⑩が点灯しているので、リセット/リターンスイッチ⑭を押してください。
- 5.ドリルが上昇し、スタートランプ⑪が点灯します。

●ピン作動ランプ⑨が点灯したとき

以下のような原因がないか、点検してください。原因を取り除いてから、再度スタートスイッチ⑩を押して、作業を再開してください。

●ドリルで開けた穴に、紙の切屑が詰まっていないか。 図20参照

●ドリルがドリルソケットの奥まで完全に挿入されているか

図21参照

P17「ドリルの取り付け方」参照

●製本時に書類がずれてしまった場合。

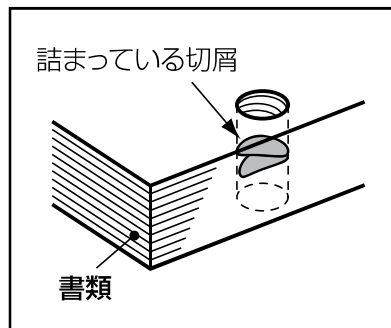


図20

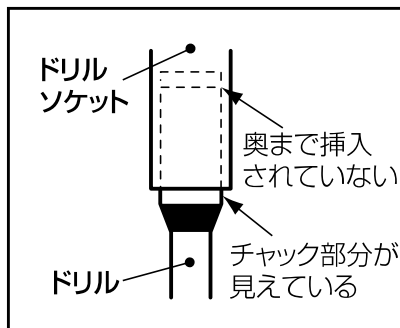


図21

●チューブの片側しか、かしめられていない場合

失敗したチューブを取り除いてください。

図22参照

●チューブがかしめられていないまま、書類の中に残っている場合

短いチューブを取り除いてください。

図23参照

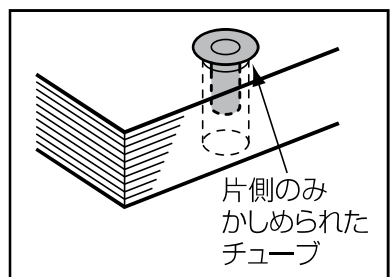


図22

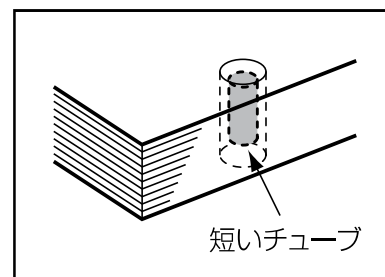


図23

●チューブガイドピンにチューブが残っている場合

ピン作動スイッチ⑬を押して、ガイドピンにチューブが残っていれば取り除いてください。

図24、図25参照

P14「残りチューブの取り除き方」参照

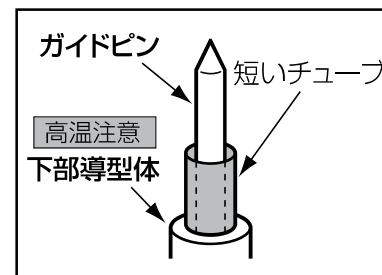


図24

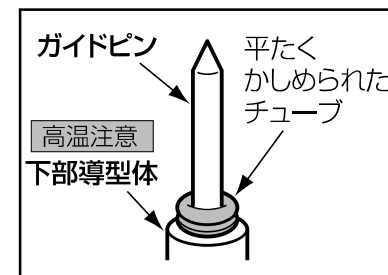


図25

⚠ 警告

●製本直後のチューブは高温になっていますので、すぐに触れてはいけません。やけどやけがの原因となる場合があります。温度が下がってから作業するか、付属のピンセットを使用してください。



⚠ 警告

●導型体に触れないでください。やけどやけがの原因となる場合があります。上部導型体、および下部導型体は非常に高温(約155～180℃)です。



●リセット/リターンランプ⑩が点灯したとき

穴あけ中に過負荷がかかった場合、このランプが点灯します。
次のような原因がないか、点検してください。

- 書類に金属が混入している
- ドリルの内部で紙づまりを起している
- ドリルが切れなくなっている

以下の手順に従ってください。

- ①安全カバーを開け、次にドリルカバーを開けてください。
- ②ドリルを取り外し、付属の屑抜き工具でドリル内部の切屑を抜き出してください。 **P16「ドリルの取り扱いについて」参照**
この時、ドリルの刃先が大きく破損していたり、ドリルの有効長さが45mmより短くなっている場合は、ドリルを新品と交換してください。 **図26 参照**

- ③書類にクリップやホッチキスの針などの金属が混入していないか点検し、あれば除去してください。
- ④書類にタック紙(粘着紙)や切手・印紙などが貼ってある部分に穴あけを行っていないか確認してください。
- ⑤良品のドリルを取り付けてから、ドリルカバー及び安全カバーを閉めてください

上記の処置を行っても、数回の穴あけでリセット/リターンランプ⑩が点灯する場合は、ドリルを研磨してください。

P18「ドリルの研磨方法」参照

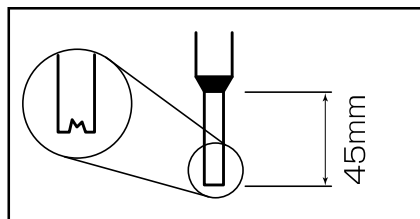


図26

☆ドリルを研磨しても、すぐにリセット/リターンランプ⑩が点灯する場合は、ドリルソケットの中に切屑が溜まっている場合があります。
ドリルソケットの内部を掃除してください。

P17「ドリルの取り付け方」図37 参照

- 使用頻度が著しく高いと、ドリルが過熱してリセット/リターンランプ⑩が点灯することがあります。この場合、ドリルの温度が下がるまで、しばらくお待ちください。
- お急ぎの場合や、穴あけ時の音が気になるときは、別売品のシリコンスプレーを使用してください。



●切れないドリルの使用は、“製本異常”の原因になり、本体にも悪影響を与えます。トラブルの少ない効率良い製本作業を行なうためにも、また、本機を末永くお使い頂くためにも、常に良く切れるドリルの使用を心掛けてください。

- 25冊(2カ所綴じ)もしくは穴あけ50回を目処にドリルを研磨することをお勧めします。

⚠ 警告

- 別売品のシリコンスプレーは可燃性のLPGを使用した製品です。
- ドリルを機械本体に付けたままスプレーすると、引火する危険があります。
- スプレーは、ドリルの温度が下がってから、必ずドリルを機械から外して、おこなってください。



⚠ 警告

- ドリルを機械から外すときは、必ず電源スイッチを切ってください。電源スイッチを切らずに作業すると、けがの原因となる場合があります。



⚠ 警告

- 穴あけ直後のドリルは高温になっています。、すぐに触れてはいけません。やけどやけがの原因となる場合があります。温度が下がってから、作業してください。



☆ピン作動スイッチ⑬を押してガイドピンを点検する際に、併せて下記のことを点検してください。

1. 押さえアーム下側の上部導型体に紙の切屑などが付着していないか点検し、あれば付属のピンセットで取り除いてください。

図27 参照

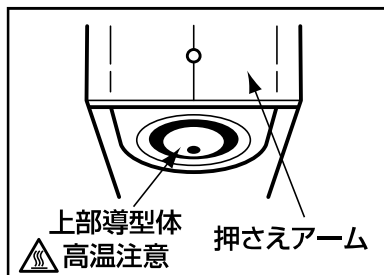


図27

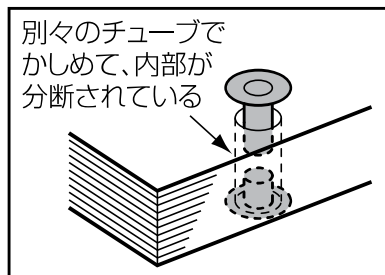


図28

2. チューブが途中で切れている場合

チューブ交換の際に、残っている前のチューブを取り除かなかったことが原因として考えられます。取り除いてください。 図28 参照

P10「チューブ排出(レバー操作)ランプ②が点灯したとき」参照

残りチューブの取り除き方

製本異常や製本に失敗して、チューブがガイドピンに残った場合は、以下の手順で取り除いてください。

1. 押さえアーム解放ボタンを押して、書類を外してください。

P9 図15 参照

2. ピン作動スイッチ⑬を押してください。

図29 参照

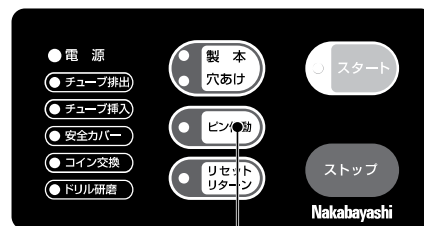
⚠ 警告

● 押さえアームの下に手や指を入れてはいけません。ガイドピンが下から上がって来ますので、けがの原因となる場合があります。



⚠ 警告

- 導型体に触れないでください。やけどやけがの原因となる場合があります。上部導型体、および下部導型体は非常に高温(約155～180℃)です。



⑬ピン作動スイッチ

図29

3. 下部導型体と共に、ガイドピンに残っているチューブが上がってきます。付属のピンセットでチューブをつまんでください。 図30 参照
チューブが平たくかしめられている場合は、付属のニッパーをお使いください。 図31 参照

☆機械内部にチューブを落とさないように、注意してください。機械内部にチューブが混入すると、動作不良になる場合があります。動作不良になった場合は、販売店あるいは、保守・サービス会社に修理を依頼してください。

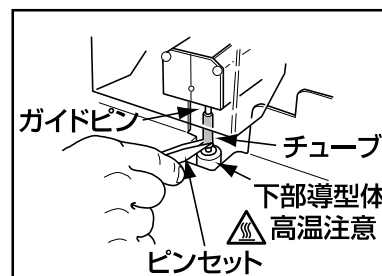


図30

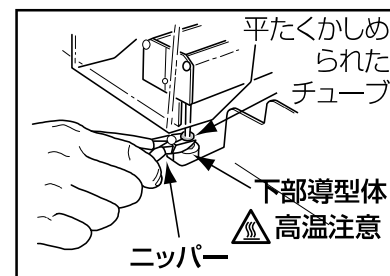


図31

4.チューブをつまんで保持していると、ガイドピンが降下することにより、チューブを除去できます。 図32 参照

☆ガイドピンの動作を一旦停止したいときは、ストップスイッチ⑩を押してください。再度、スタートスイッチ⑮を押すと、再び動き出します。ガイドピンの動作を止めた方が作業がやりやすい場合は、この方法でおこなってください。

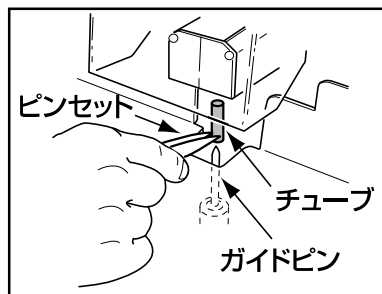


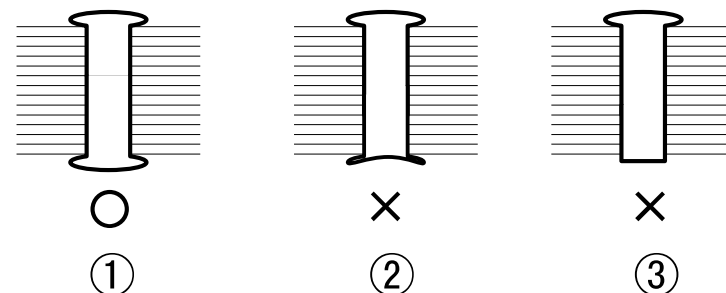
図32

⚠ 警告

- いずれのチェックも異常がないのに動作しない場合は、使用してはいけません。電源を切って、電源コードのプラグを抜いてください。
- アフターサービス連絡先にご連絡ください。



チューブのかしめが不完全な場合



①正常

②下のかしめが不完全

原因 チューブの挿入が不完全でチューブとヒーターの間にドリルの切屑がはさまり、かしめ不良を招いたと考えられる。

処置 ピン作動ランプ⑨は点灯しません。

チューブを取り除き、穴あけから再度やり直してください。この時、穴位置は完全に合わせてください。

穴位置が合わないと、ドリルの折れや破損が発生する危険があります。

③上下どちらかが全くかしめられていない。

原因 ヒーターが切れていることが考えられます。

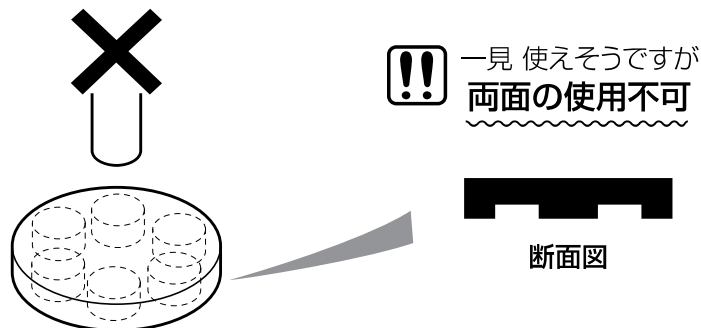
処置 販売店あるいは保守・サービス会社に修理を依頼してください。

6.保守上の注意

ゴムコインの自動回転機能について

ゴムコインの自動回転機能(60度おき)は、「製本モード」・「穴あけモード」のどちらでも働きます。

☆ゴムコインはどちらの面を使用してもかまいませんが、一度使用したゴムコインの裏面は、再利用しないでください。ゴムコインの強度が著しく低下するため、ドリルが貫通して、コイン受けに接触するおそれがあります。ドリルの先端が欠けたり、かえりが出たりするほか、モータにも過負荷がかかり、機械本体に損傷を与えるおそれがあります。



ドリルの取り扱いについて

⚠ 警告

●穴あけ直後のドリルは高温になっています。、すぐに触れてはいけません。やけどやけがの原因となる場合があります。温度が下がってから、作業してください。



●ドリルの取り外し方

ドリル研磨ランプが点灯しているとき

- 1.リセット/リターンスイッチ⑩を押してください。ドリルが取り外しやすい位置まで下りてきます。
- 2.カバー右側面にある電源スイッチを切ってください。
- 3.安全カバーを開け、次にドリルカバーを開けてください。

P17 図33、図34 参照

- 4.付属のT字型六角レンチで、ドリルソケットのドリル固定ネジ(2本)をゆるめてください。

P17 図35 参照

- 5.2本目の固定ネジをゆるめた瞬間に、ドリルが落下しますので、手で保持してください。

P17 図36 参照

☆ドリルの落下と同時に紙の切屑が落ちてきますので、注意してください。

ドリル研磨ランプが点灯していないときにドリルを外したい場合

- 1.スタートスイッチ⑮を長押ししてください。ドリルが取り外しやすい位置まで下りてきます。
- 2.ドリル研磨ランプが点灯しているときの手順2～5をおこなってください。

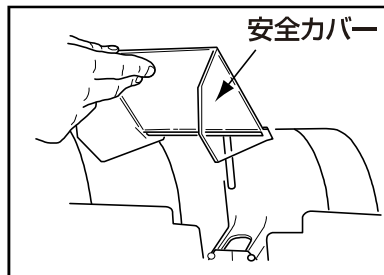


図33

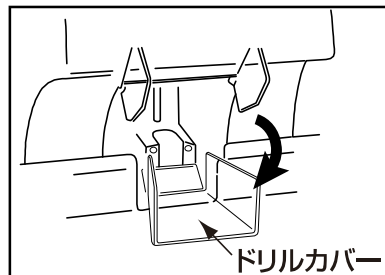


図34

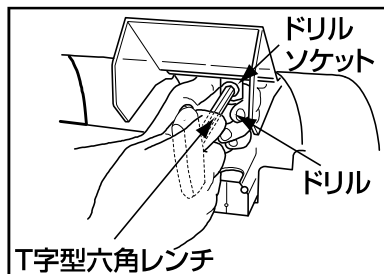


図35

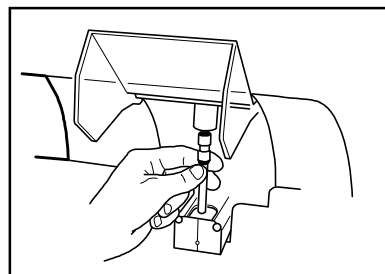


図36

●ドリルの取り付け方

1. 付属のL字棒で、ドリルソケットの内部をつついて掃除してください。
図37 参照
2. ドリルをドリルソケットの奥まで差し込み、ドリルの上端面とドリルソケット内の受面が当たって“カチカチ”という金属音がすることを確認してください。
図38 参照
3. チャック部分が完全に見えなくなる位置で、ドリルを固定してください。付属のT字型六角レンチで、2本の固定ネジを確実に締めてください。
図35、図39 参照
4. ドリルカバーを閉じ、次に安全カバーを閉じてください。
5. カバー右側面にある電源スイッチを入れてください。
6. リセット/リターンスイッチ⑭を押すと、ドリルは上昇します。

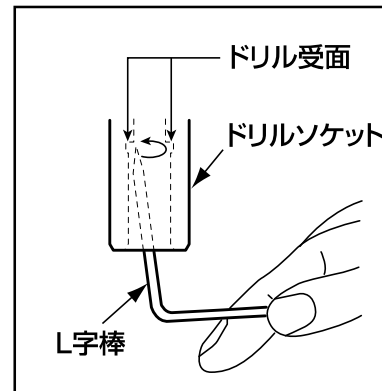


図37

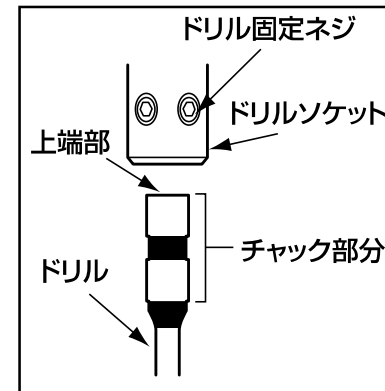


図38

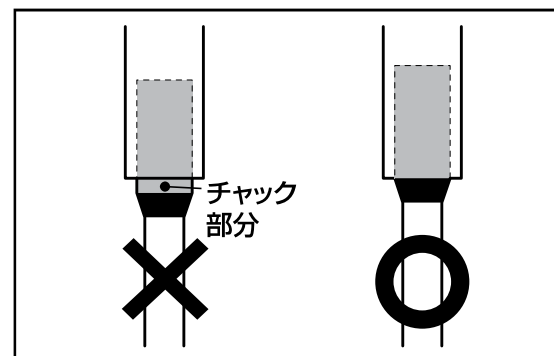


図39

- ☆ドリルが最後まで入っていない状態でネジを締めると、ドリルが抜けなくなる場合があります。
- ☆ドリルが確実に固定されていないと、万一、操作中にドリルソケットから外れた場合に、機械に悪影響を与えるおそれがあります。

●ドリル内の切屑の取り除き方

⚠ 警告

●ドリルの屑抜きは、必ず付属のつき出し器具と屑抜き工具本体を使用してください。他の工具を使用すると、手や指を突き、けがをすることがあります。



1. 付属のドリル研磨器(屑抜き工具)の固定ネジをゆるめ、つき出し器具をはずします。 図40 参照

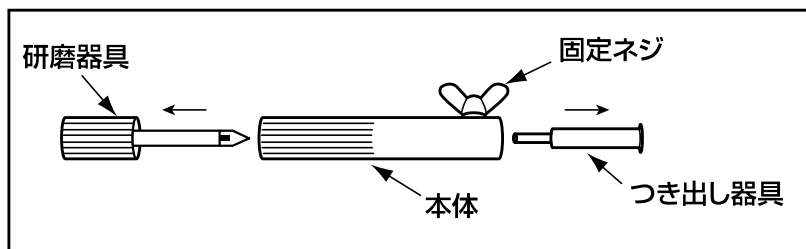


図40

2. ドリルを屑抜き工具に挿入して、ドリルの頭と屑抜き工具の端面が一致した状態で、固定します。 図41 参照
3. 図41の太矢印の方向より、つき出し器具を挿入してください。

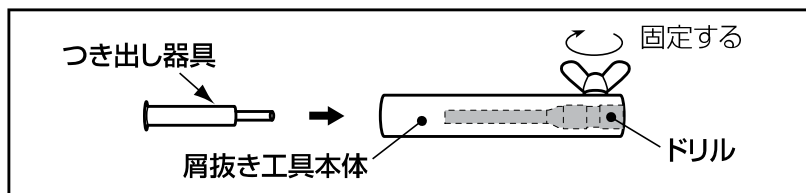


図41

4. 安定した台や机の上に、固定ネジ側の端面を下にして置き、手のひらで強く押すと、ドリル内部の切屑が除去できます。 図42 参照

☆かなづち等で叩いてはいけません。ドリルやつき出し器具が破損します。

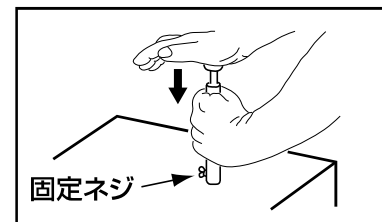


図42

●ドリルの研磨方法

- 1.ドリルを屑抜き工具に挿入して、ドリルの頭と工具の端面が一致した状態で、固定します。 図43 参照
- 2.図43の太矢印の方向より、研磨器具を挿入してください。このとき、研磨器具がドリルの刃先に当たるまで、静かに挿入してください。

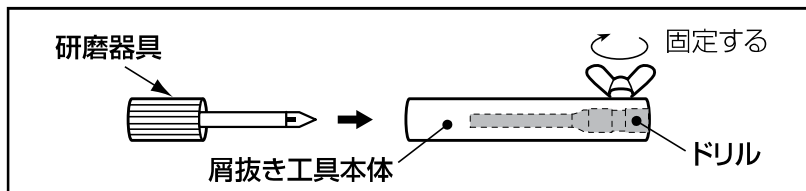


図43

☆強く当てると、ドリルの刃先が割れることがありますので、注意してください。

- 3.屑抜き工具本体を左手で保持して、右手で研磨器具を右方向に軽く5～6回、回転させて研磨してください。 図44 参照

- 4.図45のように反りが出るようでは、力の入れすぎです。反りが無くなるまで再度、研磨してください。 図45 参照

☆ドリルの研磨しろ有効寸法が45mmより短くなると、本体の構造上使用できません。新しいドリルと交換してください。 図46 参照

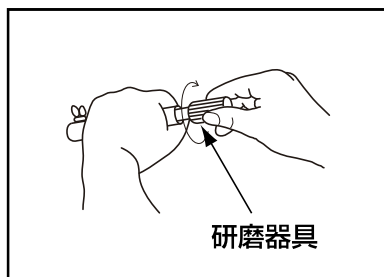


図44

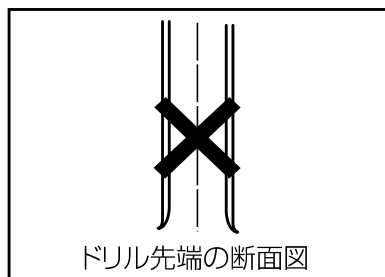


図45

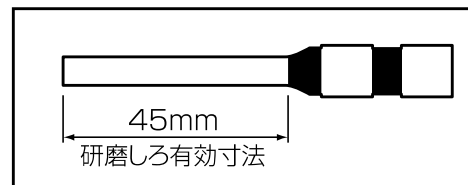


図46

ダストトレイについて

ドリルの切屑は、自動的にダストトレイへ収納されます。定期的にダストトレイを引き出して、切屑を廃棄してください。 図47 参照

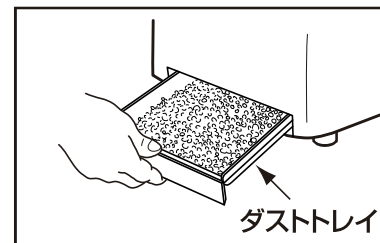


図47

7. 消耗品、オプションについて

別売消耗品

消耗品は、お買い求めの販売店にて、下記の単位で販売しています。使用に際しては、当社の製品をお使いください。
他社の製品をご使用になって、万一事故が生じても、責任を負いかねる場合があります。



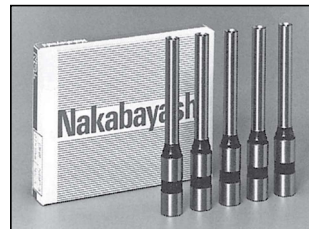
チューブNBP-1N
(1箱50本入)

必需品



ゴムコインNBP-2N
(1箱15枚入)

必需品

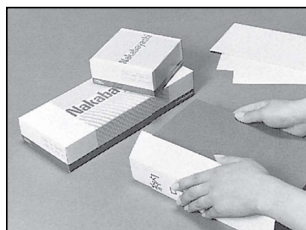


ドリルNBP-3N
(1箱5本入)

必需品



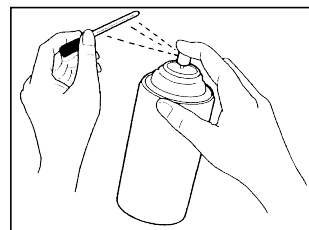
ジョイントビスNBP-11
合本が簡単に。
(1袋50本入)



タックシールNBP-40
背見出し用粘着シールです。
(1箱200枚入)

●NBP-40-1 B6サイズ用
(105×135mm)

●NBP-40-2 コンピュータサイズ用
(280×135mm)

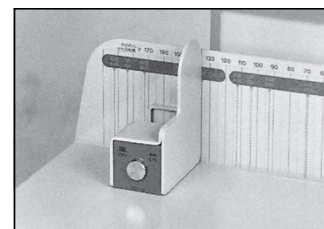


シリコンスプレーNBP-30
スムーズな穴あけ作業に。

オプション



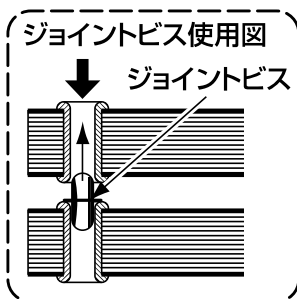
専用デスクND-11
付属工具や消耗品も収納できます。
サイズ：450(w)×550(d)×690(h)mm



サイドガイドNBP-15
連続して同じ位置に穴をあけたい時に便利。
磁石式

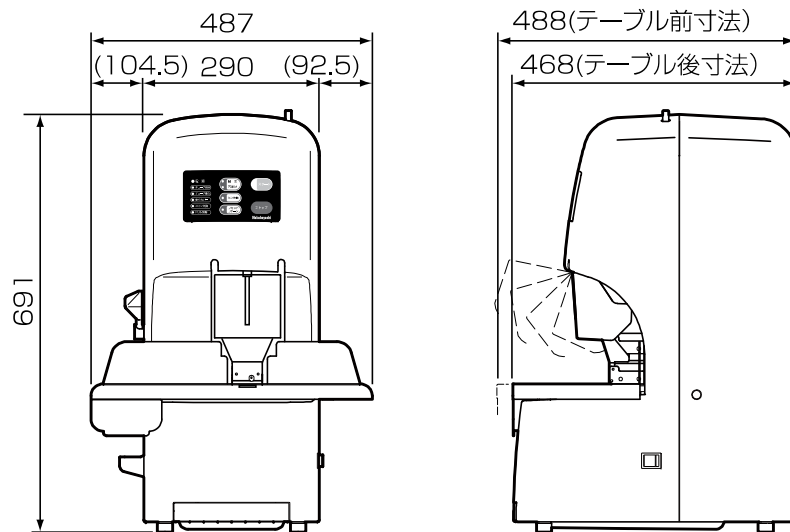


チューブカッターNBP-90
簡単にチューブを切断できます。



8.主な仕様

製 本 方 式	ナイロンチューブ熱圧縮成型	電 源	電 圧：AC100V 周波数：50/60Hz(別仕様)
穿 孔 ド リ ル	中空ドリル $\phi 7.0 \times 50\text{mm}$	消 費 電 力	最大700W, 最小10W
綴 じ 厚 能 力	1～50mm	質 量	39kg
製 本 時 間 (一 穴)	穴あけのみ 約10.5秒(50Hz) 約 9.0秒(60Hz) 穴あけ～製本 約29.5秒(50Hz) 約27.5秒(60Hz)	付 属 品	ドリル研磨器(屑抜き工具) ニッパー(チューブ切断用) ピンセット(チューブ除去用) T字型六角レンチ(ドリル交換用) L字棒(ゴムコイン交換用) 50cmチューブ：10本
ウォームアップ時間	2～4分		
テ ー ブ ル サ イ ズ	487(w)×210(d)mm		



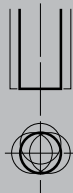
単位：mm

※改良のため、予告なく仕様・外観を変更することがあります。

9.安全のための点検のお願い

次のような症状がある場合は、事故防止のため、すぐにコンセントから電源プラグを抜いて、サービス実施店に点検・修理をご依頼ください。
(有料)

- ドリル回転の中心軸がぶれている。(下図参照)
- コードを折り曲げると、通電したり、しなかったりする。
- 運転中に異常な音や振動がする。
- 本体が変形していたり、異常に熱い。
- 焦げ臭い“におい”がする。
- その他の異常があるとき。



お 願 い

- 保証期間終了後、1年に1度は保守点検を受けてください。
(有料)
機械内部にほこりや切屑がたまったら、長い間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。
- 特に5年以上お使いの機械は、安全のため、異常が無い場合でも点検を依頼してください。
- 保守点検の内容・費用については、弊社営業または、販売店にご相談ください。また、定期的に点検を受けていただける保守契約がありますので、併せてご相談ください。

お客様メモ

後日のために記入しておいてください。消耗品の注文あるいは、サービスを依頼されるとき、お役に立ちます。

販売店名

電話(- -)

サービス実施店名

電話(- -)

ご購入年月日

ナカバヤシ株式会社

東京本社 〒174-8602 東京都板橋区東坂下2-5-1 TEL 03-3558-1228
本社 財フス 〒599-8116 大阪府堺市東区野尻町2-1-3 TEL 072-286-8090
名古屋支店 〒456-0053 名古屋市熱田区一番2-2-6 TEL 052-661-6151
福岡支店 〒812-0051 福岡市東区箱崎ふ頭5-7-11 TEL 092-641-3661
札幌営業所 TEL 011-531-1006 横浜営業所 TEL 045-279-7884
仙台営業所 TEL 022-284-3045 広島営業所 TEL 082-536-0250
高松出張所 TEL 087-831-5825



ナカバヤシホームページは下記のアドレスでご覧になれます。
<https://www.nakabayashi.co.jp/eco>

